



ほっとするね
緑の府中

第 59 号

指導室だより

編集・発行 府中市教育委員会教育部指導室
〒183-8703 府中市宮西町 2-24
電話 042-335-4063



書写実技研修会

夏季休業は、教員にとつて資質の向上を図る貴重な研修の機会である。府中市教育委員会では、五市合同専門研修を始めとする夏季研修会を38講座主催した。各研修会場には定員いっぱいの先生たちが出席し、一生懸命に研修に励み、指導力の向上を目指して努力をしていた。

この研修での成果を一学期からの授業や教育活動に是非生かしていただきたい。



パイプオルガン体験研修会

IT研修会



研修・研修!



教育相談研修会(仲間さがし)



10年経験者研修会

英語活動研修会



中学校国語研修会



和太鼓実技研修会



新学習指導要領移行期の教員の資質向上と府教研

府中市立府中第五小学校校長
府中市立小中学校教育研究会会長

齋藤 裕吉

1 時代と子ども

子どもにかかる、耳目を疑うような事件が後を絶たない。小一プロブレムやモンスター・ペアレンツなどという現象も確かにありそうである。現代の子どもたちをめぐって、かつてないような課題が山積しているよう見える。

しかし、毎日元気に登校し、無邪気に遊んだり学習したりしている自校の子どもたちを見ているとほっとする。現代の子どもたちの姿には、昔ながらに変わらぬ子どもらしい本質と、時代の子としての特徴をあわせ見ることができるはずである。この目の前の子どもたちに、激しく変化するこれから社会に生きる力をしっかりと身に付けさせたいとつくづく思う。

2 生きる力の育成と新学習指導要領への移行準備期の課題

○新しい学習指導要領の内容を実践するための教材・教具・備品等の研究と整備、等。

○新教育課程の趣旨の学校現場への徹底

○新しい学習指導要領への移行を目指す各教科・領域等の具体的な年間計画の作成

○新しい学習指導要領の内容を実践するための教材・教具・備品等の研究と整備、等。

○次には、校内研究への積極的な関わり。学校現場において、日々、学び成長しつつある子どもたちの実態をしつかりみつめながら課題を整理し「生きる力」

う理念は、3月に告示された新しい学習指導要領でも基本理念として引き継がれた。そしてこの「生きる力」を支えるものは、確かな学力と豊かな心、健やかな体であり、この三つの要素の調和のとれた育成が強調されている。

そしてまた、この学力の重要な要素として○基礎的・基本的な知識・技能の習得 ○思考力・判断力・表現力等の育成 ○学習意欲の向上や学習習慣の確立、があげられている。

このような新しい学習指導要領への移行を準備する今年度の課題としては、次のような事項が考えられる。

○新教育課程の趣旨の学校現場

○次には、校内研究への積極的な関わり。学校現場において、日々、学び成長しつつある子どもたちの実態をしつかりみつめながら課題を整理し「生きる力」

3 鍵となる教員の資質向上と研修

これらの移行準備期の課題を遂行するためには最も重要なのは教員の資質の向上であろう。その意識の啓発や指導力の向上等の資質の向上が新学習指導要領への移行準備の鍵となる。教員は自ら進んで時代の変化に適応しながら新教育課程の創造的実践を進めていく努力が必要であり、そのための研究と修養が必要である。それでは、どういう形での研修があるかといえば、次のようなものがあるだろう。

○まず、自己研鑽。これは研究と修養の基盤となるものである。自ら問題意識をもち、資料を集め、人と語り、探究することである。このことが他の研修の基礎にもなるものである。

○次には、校内研究への積極的な関わり。学校現場において、日々、学び成長しつつある子どもたちの実態をしつかりみつめながら課題を整理し「生きる力」

○そして更に、研修に幅と深みをもたらすことのできる場が府教研のような研究会である。

「あさに生きる力を育てるため」・・・これは今年度の府教研の研究主題である。これは20年以上変わらぬ研究主題であるが、今の時期にますます時宜にかなったものとなってきた。

○まず、自己研鑽。これは研究と修養の基盤となるものである。自ら問題意識をもち、資料を集め、人と語り、探究することである。このことが他の研修の基礎にもなるものである。

○次には、校内研究への積極的な関わり。学校現場において、日々、学び成長しつつある子どもたちの実態をしつかりみつめながら課題を整理し「生きる力」

○また何よりも、定例会等への参加をしっかりと確保することが重要である。他の区市では教育研究会を解散してしまったり定期会の回数を大幅に減らしたりしているところもあると聞いている。大事な研究と修養の機会を自らつぶしてしまうのは、教育基本法の精神にも反し、教師としてのプライドと責任を放棄してしまうようなものである。

幸い本市においては市教育委員会が物心両面の多大な支援を与えてくれている。それを受け止めながら、今のような改革の時期にこそ自覚を高めて府教研の活動に参加すべきであろう。

○まず、ベテラン教員の大量退職と新規採用教員の大量採用とまえた取り組みが必要であろう。そういう会員構成の特別な変化を踏まえた取り組みが必要であろう。

ともに教員として切磋琢磨し、子ども観を深め、新しい学習指導要領を創造的に実践するための指導力を磨き、教師としての責任感とプライドを高める絶好的な場として、この府教研を生かすべきであろう。

を着実に身に付けるための校内での共同研究は、教員にとって基礎的な研修の場である。○更には、教育委員会の主催する各種の研修会や委員会には教育委員会等の行政機関が、時代や社会の要請に沿った的確な教育情報を提供してくれるはずである。

○また何よりも、定例会等への参加をしっかりと確保することが重要である。他の区市では教育研究会を解散してしまったり定期会の回数を大幅に減らしたりしているところもあると聞いている。大事な研究と修養の機会を自らつぶしてしまうのは、この府教研ではないだろうか。

本校では、平成16・17年度に「地域と共に取り組む学校防災・防犯教育」（府中市教育委員会研究協力校）の研究に携わって以来、「防災・防犯教育」を一つの柱として教育活動を進めてきた。

○災害に対する知識を身に付けて、かけがえのない命の尊さを深く自覚し、関わり合い、支え合い、生きていく態度を育てる。

○防災力・防犯力を身に付け、緊急時に冷静に対応し、仲間や地域の人々と共に力を合わせて問題解決に向かう態度を育てる。



応急救護訓練の様子（立川防災館）

⑤応急手当訓練・・・負傷者に対する応急手当の学習

⑥炊き出し訓練・・・避難所における炊き出しの方法を学習し、アルファ米を試食する。

⑦地域安全マップの作成

生徒と保護者・教員が一緒に

わが校の特色ある教育 NO.24

地域と共に取り組む 学校防災・防犯教育

府中市立府中第八中学校
主幹教諭 木下 英典

1 立川防災館の体験学習 (第一学年)

この二つを目的として、次のような取り組みを行っている。

第一学年では、立川防災館を訪れ、防災についての体験活動を行っている。煙体験・地震体験や防災シスター（直下型地震を想定した映画）を視聴することによって災害の恐ろしさを体験する。そして、それらの災害から身を守るすべとして消火器訓練や応急救護訓練を行い技能を身に付ける。

最初は、遊び気分だった生徒たちも次第に真剣になり、心臓

①初期消火訓練・・・消火器を使ったものとバケツで水をくんでの消火方法の学習
②テント設営・・・避難所に必要なテントの設営方法の学習
③煙体験学習・・・煙ハウ

スを歩き、火災発生時に煙から身を守り、安全に避難する方法の学習
④倒壊家屋救出・・・家屋が倒壊して下敷きになった人を救出し、安全な場所まで搬送する方法の学習。ハンドゴールの下敷きになつたダミー人形をロープ・ジャッキ・スコップ・角材等を利用して救出方法を考え出していく。

2 地域合同総合防災訓練 (第二学年)

マッサージの手にも力が入ってきた。指導員の方の話にも耳を傾け、最後には、自分たちの生活の中でも役立てていきたい、と考える生徒もいた。



倒壊家屋救出訓練の様子（府中第八中校庭）

地域の安全を図り、事故を未然に防止するために、確実な情報収集し、発信することが必要である。

このように府中第八中学校では、三年間を通して各学年に即した活動を取り入れ系統立てて取り組んでいる。

「地域に育つ子ども」「地域の中の学校」としての意識をもち、普段から子ども・保護者・地域・学校及び専門機関が、関わり合い、支えながら「防犯・防犯行動力」を養っていくことが重要である。このような活動を継続させていくことに大きな意義があると感じている。

平成20年度 校内研究・研修テーマ等一覧

学校名	研究・研修テーマ	教科・領域等	研究協力校等
府中第一小	「感じ・考え・創造する子の育成」	国語科	研究協力校
府中第二小	「自信をもって チャレンジしていく子どもの育成」<キャリア教育の視点に立って>	全教科・道徳・総合的な学習の時間	研究協力校(2年次)
府中第三小	自ら学び、進んで考える子どもの育成 ～考える力を育てる算数の授業づくり～	算数科	研究協力校(2年次)
府中第四小	「すすんで運動に取り組む児童の育成」	体育科	研究協力校
府中第五小	「考えを深め表現できる児童の育成」 ～書く活動の指導の工夫を通して～	国語科	研究協力校
府中第六小	自ら学べる児童の育成	算数科・国語科	研究推進校
府中第七小	考えを深めるための基礎・基本の充実	全教科・全領域	研究推進校
府中第八小	「豊かな言葉をもつ子の育成」 ～聞く・話すの活動を通して～	国語科(聞く・話す)	研究推進校
府中第九小	「ことば」力を高める －表現する(書く・話す)ことを通して－	国語科	研究協力校
府中第十小	豊かに表現する児童の育成	国語科	研究推進校
武蔵台小	考えたことを自分の言葉で表現し伝う合う子どもの育成－国語科の聞く話すを中心にして－	国語科	研究協力校
住吉小	「ふれあい かかわりあい わかりあえる子」	国語科	研究推進校
新町小	自ら考え表現することができる児童の育成	国語科(書くこと)	研究推進校
本宿小	楽しく学び、進んで活動する児童の育成 理科・生活科を通して	理科・生活科	研究推進校
白糸台小	豊かに生きる子ども －知・徳・体の調和のとれた白小教育の創造－	算数科・道徳・総合的な学習の時間・生活科・体育科	研究協力校(2年次)
矢崎小	「自ら学び考える子どもの育成」 －地域を生かし 体験と表現を大切にして－	国語科・社会科・理科・生活科・図工・音楽・総合的な学習の時間	研究協力校(2年次)
若松小	「楽しく運動する子どもたち」 体育科の授業を通して	体育科	研究協力校(2年次)
小柳小	「聞く・話す活動を通して、互いに尊重し合う子どもを育てる」	国語科	研究推進校
南白糸台小	「聞く・話す・思いをえがく」	国語科	研究協力校
四谷小	人とのかかわりの中で、自分の思いを実現しようとする子	全教科・全領域	研究推進校
南町小	児童の心と言葉を育てる読書活動の工夫	国語科(読書活動)	研究推進校
日新小	「豊かなかかわり合いの中で、自主的に活動する児童の育成」～学級活動を中心に～	特別活動(学級活動)	研究協力校
府中第一中	新教育課程移行計画、生徒指導、特別支援教育 総合的な学習の時間	全教科・全領域	
府中第二中	「連携を通した『学校力』の向上について」	全教科・生徒指導	研究協力校
府中第三中	生徒の主体的な学びを高めるための授業づくり －地域の人材の活用を通して－	全教科	研究協力校
府中第四中	地域と連携を図り ICTを活用した授業の工夫 －授業改善に役立つソフト等を地域と考える－	全教科・全領域	研究協力校
府中第五中	学習意欲の向上をめざした授業改善の推進	全教科	
府中第六中	六中のキャリア教育・新教育課程の方向性をさぐる	全教科	
府中第七中	人権感覚を基盤にした心豊かな人間関係づくり 「東京都の人権10課題に取り組む指導の工夫」	道徳、全領域	研究協力校(2年次) 都人権尊重教育推進校
府中第八中	新学習指導要領への対応－授業と評価－	全教科	安全教育プログラム 開発事業推進校
府中第九中	本校生徒の学力・生活向上を図るための諸課題への取り組みとその対応	全教科・全領域	
府中第十中	生徒の学力向上を図るための授業改善	全教科	
浅間中	特別支援教育の理解と指導計画の作成	生徒指導	

道徳授業地区公開 講座案内(二学期)

二学期は左記の17校にて道徳授業地区公開講座が実施される。

◆9月13日(土)	府中第五中学校	9時40分
府中第六中学校	10時45分	
浅間中学校	9時30分	
◆9月17日(水)	矢崎小学校	13時20分
◆9月20日(土)	府中第二中学校	10時50分
◆9月27日(土)	武藏台小学校	9時30分
◆9月30日(火)	府中第七中学校	13時25分
◆10月4日(土)	府中第二小学校	9時40分
府中第一中学校	10時40分	
◆10月11日(土)	府中第十小学校	8時45分
◆10月17日(金)	南町小学校	13時30分
◆10月20日(月)	南町小学校	13時45分
◆10月22日(水)	府中第七小学校	13時45分
◆10月25日(土)	府中第九中学校	13時30分
◆11月1日(土)	府中第一小学校	8時50分
◆11月22日(土)	若松小学校	8時50分
住吉小学校	8時40分	

9月研修会・委員会等予定	日	曜	研修会・委員会等		会場	研修内容等
			開催日	会場		
1	月	特別支援学級代表者会		教育センター	代表者会、分科会	
4	木	ICT活用推進委員会		府中第三小学校	全体会	
4	木	中学校社会科副読本編集委員会		教育センター	全体会	
5	金	体力向上委員会		教育センター	全体会	
8	月	生活指導主任会		教育センター	全体会(連絡・検討事項) 小・中分科会	
9	火	初任者等研修会		都立武藏台特別支援学校	特別支援教育の推進	
9	火	進路指導主任会		教育センター	全体会(連絡・検討事項)	
11	木	小学校英語活動推進委員会		教育センター	全体会	
12	金	人権教育推進委員会		教育センター	分科会(授業案検討)	
25	木	就学指導協議会		教育センター	A・B部会	
26	金	図書館担当者等研修会		教育センター	講義「学校図書館の機能の充実に向けて」	
30	火	初任者等研修会		市内学校	先輩教師による授業	

団塊世代の教員の大量退職期を迎える採用10年に満たない教員が半数以上を占める学校も見られるようになつた。多くの校長は、「今年は新人教育に力を入れなければ」と本気で思ひながらも、日々の経営課題に追われ、なかなか思うように事が進まない現状もあるのではないかと推察する。

ここで一つ、疑問を投げかけたい。それは、新人の育成にもつながるが、「できる教員」と保護者等から評価を受ける教員はどのような教員なのかということである。

一言で表現することは難しいが、それは、教科指導や生徒指導に関する専門スキルとその土台となる基本スキルをしっかりと身に付けている教員ではないかと考えている。

この基本スキルとは、聴く力・話す力・書く力等である。多くの学校では、OJTやOFFJTで、または初任者研修をはじめとする研修で専門スキルを育成しようとしている。

しかし、土台である基本スキルがしっかりとしていなければ、教員の成長も頭打ちになってしまふ。一般に基本スキルは専門スキルに比べて、習得に時間がかかるといわれている。

しかも基本スキル育成の鍵の一つは管理職が握っている。こう断言すると、「え?」と思われるかもしないが、きっかけは、上司の口癖なのである。

例えば校長は初任者に対して「結論から先に言え」ということを常々伝えていた。どうか。このような上司の口癖だけで、部下の考える力、話す力が高まっていくという報告がある。大切なことは、「教員を育てる」のではなく「教員が育つ環境」をつくることと考えている。その一つの方策が、管理職の口癖を変えることではないだろうか。

大切なことは、「教員を育てる」のではなく「教員が育つ環境」をつくることと考えている。その一つの方策が、管理職の口

を考える力・話す力・書く力等である。多くの学校では、OJTやOFFJTで、または初任者研修をはじめとする研修で専門スキルを育成しようとしている。しかし、土台である基本スキルがしつかりしていなければ、教員の成長も頭打ちになってしまふ。一般に基本スキルは専門スキルに比べて、習得に時間がかかるといわれている。

事業内容は、市立小学校の教

室、体育館、校庭等の施設を利用し、放課後等の子どもたちを対象に、学習、スポーツ、文化活動、地域住民との交流活動等の機会を提供するものである。

実施日は、原則月～土曜日としているが、学校教育に支障のない範囲での運営を基本としている。実施体制は、子ども家庭部と教育部が連携・協力をして実施するものとし、事業運営は、NPO等の地域の児童育成団体に委託している。

平成19年度から試行的に3校で始まった本事業であるが、本年9月には若松小で開始し、22校全校での実施となる。

始まつたばかりの事業であるが、学校の協力がなくては成り立たないことを痛感している。今後とも教職員をはじめとする学校関係者各位の協力を願うものである。

放課後子ども教室について

児童青少年課係長 鈴木 正憲

字じの窓